

クリントートCEの効果確認試験



慣行区①



試験区①



試験区②



試験区③



試験区④

試験目的

クリントートCEの効果確認試験

試験作物
及び品種

ピーマン

試験資材
及び数量(規格)

クリントートCE(0.08mm×450cm×54m) 2枚
 クリントートCE(0.08mm×230cm×54m) 2枚

慣行資材

イースター(0.075mm)

栽培方法

定植日
 慣行区:4月中旬
 試験区:4月中旬

収穫日
 慣行区:6月上旬
 試験区:6月上旬

【栽植密度】
 畝幅:145cm
 株間:60cm

資材使用期間

通年使用

試験区面積

396㎡

試験結果

(1)作業性について(慣行品との比較)

作業性については慣行品と変わらない。

(2)作物の生育状況または、収穫への影響

透明度が高いせいか試験区のほうが、初期生育もよく、色付きもよかった。また、11月に入ってから収量にも若干の差が出てきている。

(3)栽培管理上の優位点あるいは問題点について

【優位点】: 慣行品と変わらない。

【問題点】: 慣行品と変わらない。

(4)資材の強度・耐久性・崩壊性について

慣行品と変わらない。

(5)促成・抑制効果について

生育状況に差が出たことから慣行品よりも若干効果が高いと思われる。

(6)保温効果について

生育状況に差が出たことから慣行品よりも若干効果が高いと思われる。

モニター感想

透明度が非常に高いフィルムで昼間のハウス内での作業時には試験品のハウスのほうが温かく感じた。また、流滴効果についても試験品のほうが高く、地面の水滴がしっかりとハウスの端に落ちていた。

特に秋以降については収量にも若干の差が出てきていることから、試験品のフィルムの効果は非常に高いものであると考える。

JA担当者の感想(継立出張所資材係 大湊 氏)

初期生育や、葉色の濃さ、収量にも差がでていることから今回実施した試験品の優位性が認められた。

これは透明度が高く、フィルムの厚さが従来の内張りフィルム(0.075mm)よりも厚くなり(0.08mm)保温性が高くなっているのだと思われる。

ただし、慣行品とは資材の使用年数にも差があるため、今後複数年使用した状況を確認していく必要があると思う。

今後の使用について

継続して使用したい。

初年度については非常に良い結果となった。

次年度以降の物性についても経過を見ていきたいが、この品質が維持されるなら継続して使用していきたい。

将来希望する資材について

コスト低減につながる資材